

家庭教育支援チーム「てとと」



学校	学校運営協議会	地域学校協働活動推進員等数 (赤字は内学校運営協議会委員数)	地域学校協働本部
さいたま市立 大久保東小学校	大久保東小学校学校運営協議会 平成31年4月1日 設置	地域学校協働活動推進員 0名 0名 地域コーディネーター 1名 1名	大久保東コミュニティ「大けやき」



取組の背景及び目標や目指す姿

背景

本校では、基本的な生活習慣が身に付いていない児童や、不登校・不登校傾向の児童が増加傾向にあった。また、保護者会・学校行事への参加や地域との関わりが少ないなど孤立している家庭も少なくない。
学校運営協議会において、課題を共有する中で委員から様々な情報とアイデアが出され、支援を必要とする家庭へのアウトリーチ活動を行うことになった。学校運営協議会委員と地域学校協働本部の一部のメンバーにより、家庭教育支援チーム「てとと」を結成し活動している。

目標や目指す姿(学校)

輝く笑顔 あいでつながる 大久保東小学校

目標や目指す姿(地域)

出会い、学び合い、高め合い、助け合い、支え合える地域



大久保東小学校学校運営協議会 の特徴

委員の立場や属性等

- | | |
|---|------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 学校地域連携コーディネーター | <input type="checkbox"/> 児童センター関係者 |
| <input type="checkbox"/> 保護者 | <input type="checkbox"/> 大学教授 |
| <input type="checkbox"/> 民生児童委員 | <input type="checkbox"/> 育成会関係者 |
| <input type="checkbox"/> 自治会関係者 | など、計 15名で構成 |
| <input type="checkbox"/> 公民館関係者 | 年間平均 3回程度開催 |

効果的な運営の工夫

- ・委員が月に1回程度、家庭教育支援チーム「てとと」の活動を通して得た情報や、学校や家庭に不安を抱えている児童について共通理解を図る場を設定している。
- ・学校地域連携コーディネーターが学校便り等を地域に配布する際に、積極的に情報交換を行い、学校運営協議会委員と情報や課題等を共有している。
- ・学校地域連携コーディネーターを補佐する役割を担う、本校独自の「地域学校協働活動ファシリテーター」を委員に委嘱している。



特徴的な取組と成果・効果

学校運営協議会

- ・教育相談担当教員や学校地域連携コーディネーターが不登校児童や孤立している家庭の情報を収集し作成した支援計画を検討する。
- ・地域学校協働本部との具体的な連携・協働の内容を検討する。
- ・委員(民生委員等)が、ネットワークを生かし複数人で家庭を訪問する。
- ・家庭訪問やサロン等で得た情報を共有し、計画の見直し等を行う。



学校運営協議会の様子

地域学校協働活動

- ・地域学校協働本部のサロンと図書読み聞かせという既存の活動を組み合わせ、子どもを預けながら親が相談できる時間帯(カフェ)を月1回設定する。
- ・支援計画に基づき、個別に開催通知をポスティングする。
- ・支援計画を共有し、相談体制を充実する。



サロンの様子

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施」のための工夫等

- ・学校運営協議会委員と地域学校協働本部サロン等のメンバーが、足並みを揃えて協働できるよう支援計画を作成した。
- ・学校地域連携コーディネーターをはじめ学校運営協議会委員が、地域学校協働活動本部のボランティア活動(土・放課後の体験や学習支援活動)や子育て講座へ積極的に参加することで、不安を抱える家庭へ意図的に声掛けができるようになった。

取組

成果・効果

学校運営協議会の導入により、学校内の教育相談、気軽に相談できるサロン、家庭へのアウトリーチ活動がつながり、様々な角度からの伴走型支援体制が整った。また、この活動は、学校・家庭・地域に互酬性をもたらした。不登校等へのきめ細かな対応が可能となった「学校」、子どもが登校できるようになった「家庭」、家庭の孤立化の解消に踏み出した「地域」で、次のような成果・効果が挙げられる。

- ・委員である民生委員等が保護者の在宅時間に訪問し、相談に乗るなどきめ細かな支援を行ったり、サロンへの参加を促したりすることを繰り返すことで、訪問対象の保護者の声が明るくなった。
- ・支援の必要な保護者の発見、情報収集、ボランティアや子育て講座、交流の場への参加の働き掛けを行うことにより、家庭を孤立させることなく学校や地域に巻き込むことができた。
- ・定期的に情報や支援を届けたり、家庭訪問を行ったりすることで、「学校の様子やクラスの状況が訪問者の話から分かってうれしいという声」や、6年生の児童からは、「中学校進学への不安な気持ちを訪問者へ伝えられてよかった」という反応がみられた。
- ・訪問した児童が、保護者と一緒に授業中や放課後に来校し、笑顔で帰っていく姿が見られた。
- ・学校運営協議会委員や地域学校協働本部のメンバー、教職員共に家庭と地域のつながりの必要性や重要性を一層感じるようになった。